

# 趣意書

— 当学会賛助のお願いについて —

拝啓 時下貴社には益々御隆盛の段お慶び申し上げます。

さて日本分光学会は、さまざまな分野の研究者に分光学を主題とした学際的研究交流の場を提供することを目的として、昭和二十六年に創立された特色ある学会であり、平成十三年四月に創立五十周年を迎えました。この間、会誌「分光研究」を刊行し、測定法シリーズの出版をすすめるとともに、講演会・講習会・研究会などを開催し会員の研究・連絡ならびに啓発に資するよう努めてまいりました。

分光学は長い伝統を持つ学問であり、今世紀の始めにおいては量子力学の基礎を築いたことでよく知られておりますが、現代の分光学（スペクトロスコピー）は電磁波（光）の分光に限らず、電子・陽電子・イオン等の粒子をも対象にしたエネルギー・時間・空間等の解析へと拡大・発展し、物理・化学・生物・医学等さまざまな学問領域における重要な研究手段となっております。また光源一つをとりあげても、従来の光源に加えレーザー・シンクロトロン放射等その特性もコヒーレント・インコヒーレント・単色・連続スペクトル・高輝度・波長可変・偏光可変・超短パルス等多種多様になり、各々の特徴を生かした新しい原理に基づく新分光法も次々と開発されております。

一方応用面では、分光学は、光工学・新機能材料工学・電子工学・化学工学・バイオ工学等の分野において必要不可欠な研究手段となっており、今後の物質科学・生命科学の発展において主要な分析手段となることは明らかであります。最近ではとくに環境保全・研究安全管理など大きな社会的ニーズに対して必須の計測手段を提供するとともに、エネルギー開発・核融合研究・海洋および宇宙開発などの諸分野においても基礎とその応用の両面において重要な貢献をなしつつあります。

このような社会的要請にこたえるべく本学会は創立以来の目標である学術的研究を一層発展させつつ、分光学に関連する多くの学際的成果を社会へ還元すべく努力し、その会員数も千二百名に達しております。しかしながら、何分にも営利を目的としない純学術的な団体でございますので、個人会員のみでは学会運営は財政的に困難な状態でございます。つきましては、右記の趣旨と財政状態等を御諒察下さいまして、本会賛助会員としてご加入賜りますようお願い申し上げます。何とぞよろしく御高配賜りたくお願い申し上げます。

敬具

平成 年 月 日

東京都千代田区内神田一の十一の六

大丸アネックス二〇一号室

社団法人 日本分光学会

# 社団法人 日本分光学会

## 賛助会員の特典

社団法人 日本分光学会の賛助会員としてご入会いただければ、下記の特典が得られます。

### 記

#### 1、会誌「分光研究」(年6回発行)

賛助会員会費1口(年額26,000円)につき2部まで無料配布

#### 2、本会主催の講演会、研究会などで参加費を徴収する場合、

その人が非会員であっても会員並みの参加費でよい。

○ 講演会、シンポジウム、研究会等

○ 夏期セミナー、講習会等

#### 3、会誌「分光研究」への広告掲載料の割引

例えば

	賛助会員	一般
前付	63,000円	78,000円
後付	53,000円	66,000円

以上

## 会員種別とその権利、義務の一覧表

社団法人 日本分光学会

	会員種別	正会員 (シニア会員)	学生会員	公共会員	特別会員	賛助会員	名誉会員
権      利	講演会での 研究発表	有	有	無	無	無	有
	学術的会合の 参加費会員 割引	有	有	無	無	有	有
	「分光研究」 への投稿	有	有	無	無	無	有
	「分光研究」 の配布	1部	1部	1部	1部	2部	1部
	「分光研究」 等への広告 掲載料の割引	無	無	無	無	有	無
	出版物の 会員割引	有	有	無	無	無	有
	会員名簿の 配布	1部	1部	1部	1部	1部	1部
義務	会費年額	7,600円 (シニア3,000円)	2,000円	12,000円	19,000円	1口 26,000円 1口以上	無

## 日本分光学会賛助会員入会申込書

貴会 賛助会員として入会いたしたく申し込みます 平成      年      月      日		会員番号	賛	
フリガナ 団体名			口 数	口
代 表 者 職 名 氏 名			業 種	
連絡担当者 職 名 氏 名			部 課 名	
所在地	〒			
TEL :		FAX :		
E-mail :				
URL :				
会 誌 配 布 先	〒			
受 付		承 認		通 知

太枠の中は記入しないで下さい。